

心理療法特論

2単位 (選択) 1年(前期), 2年(前期)

佐藤 健二・教授/臨床心理学専攻, 石田 弓・非常勤講師

【授業目的】 精神分析的な心理療法や認知行動療法などの様々な心理療法の基礎的な理論と技法について系統的に講義すると同時に、事例論文を検討することによって、どのようなクライアントに対して、あるいはどのような心理臨床現場において、これらの心理療法が有効に用いられているのかについて学ぶ。

【授業概要】 様々な心理療法を行うに当たっての基礎的な理論や技法について学習する。

【キーワード】 精神分析的な心理療法, 認知行動療法

【先行科目】 『精神医学特論』(1.0)

【関連科目】 『障害臨床心理学特論』(0.5)

【履修上の注意】 授業を受けるだけでなく、また、教科書や参考文献を読むだけで、心理療法の技術が身につくわけではないが、心理療法に関するテキストは数多く出版されているので、自主的に目を通しておくこと。また、授業中でも扱うが、自主的に事例論文からも心理療法の具体的な進め方や問題点について学ぶことを期待する。なお、佐藤健二担当分では、グループ発表方式を採用する予定である。

【到達目標】 いくつかの心理療法を幅広く学ぶことによって、様々な心理臨床場で、より適切な臨床心理学的サービスを行うことのできる能力を養成することを目標とする。

【授業計画】

1. 第1章:精神分析心理療法の現在
2. 第2章:心理療法の基本概念の再考
3. 第3章:探索的な介入技法の基礎
4. 第4章:初期面接と心理力動的アセスメント
5. 第5章:面接中期から終結まで
6. 第9章:精神病理の力動的理解と対応
7. 第13章:精神分析的な心理療法の日本的特徴
8. 精神分析的な心理療法に関する事例検討
9. 認知行動療法の理論と実際 1:強迫性障害の暴露反応妨害法
10. 認知行動療法の理論と実際 2:社会不安障害の認知行動療法
11. 認知行動療法の理論と実際 3:広場恐怖を伴うパニック障害の認知行動療法
12. 認知行動療法の理論と実際 4:うつ病の認知療法
13. 認知行動療法の理論と実際 5:マインドフルネス認知療法と ACT
14. 認知行動療法の理論と実際 6:発達障害の認知行動療法

15. 認知行動療法の理論と実際 7:心身症の認知行動療法

16. 認知行動療法の理論と実際 8:不登校の認知行動療法

【成績評価】 出席および授業中の積極的な態度を重視する(50%)。また、学期末に試験およびレポートを提出する。

【再試験】 無し

【教科書】 鑑 幹八郎(監修) 精神分析的な心理療法の手引き 誠心書房

【参考書】 坂野雄二 認知行動療法 日本評論社

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218057>

【連絡先】

⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 12:10-12:40)

【備考】 隔年(奇数年度)開講:本年平成 22 年度開非開講